

2006年度 原子核三者若手夏の学校三者総会議事録

2006年度三者事務局（神戸大学）

1 2006年度三者センター校（九州大学）からの報告

予算の内訳についての報告がなされた。

昨年行われていた「現金化」の方法はあまり良くないとし、今年は基研からの援助金を旅費補助に当てたが、補助を希望する人数が多い場合は対応しきれないとして、以下の提案がなされた。

提案 予算の用途はセンター校に一任する。

提案 に関しては賛成多数で可決された。

2 2006年度三者準備校（京都大学）からの報告

2.1 報告

仕事内容の説明と会計報告が行われた。準備校の仕事は、以下の通りである。

1. 宿の選択、予約
2. 時間割の大枠を作成
3. スポーツ大会、懇親会などの運営

これらの件に関して、質疑応答がなされた。

Q. 高エネルギーパートの参加者がパート校が把握している人数（31人）と報告された人数（28人）とで食い違っているのはなぜか？

A. 準備校の人数はお金を徴収した人数です。また、キャンセル等は考慮していません。

Q. 各パートごとに講義が独立で行われているのは、交流が薄く、どうしても自分のパートの講義に参加する事が多くなり、三者合同で行う事の意義が少ないのではないか？また、講義内容が重複している場面も見られた。

A. 各分野の違いから、共通部分を増やしても、効果は少ないと思われる。また、共通講義を増やす事は可能であるが、それは各パート校同士の調整で行われるべき事項であり、準備校の感知するところではない。また、講義内容に関しても各パート校同士の連絡を密にしていれば、問題ないと思われる。

2.2 提案

質疑応答を受け、会員から以下の2つの提案がなされた。

提案1 講義内容、招待講師を準備校で把握、調整をしてほしい。

提案2 三者共通のセッション、研究会を設けてほしい

提案1 に関しては、各パート校同士でML等を通じて連絡を密にする事を努力するという事で、提案は取り下げられた。

提案2 の論点は以下のものであった

- 現在の日程の中に新しい枠を設けるのは困難である。

- 会員の要望はどれほどあるのか？

総会では、会員の要望がどれほどあるのか、挙手を求めたところ、圧倒的多数がもうけて設けて欲しいと思っている事が分かった。日程の件については、開催期間を延ばすのも準備校の裁量であるが、現実問題として難しく、日程の調整は課題となった。また、共通セッションを行う事を決定した訳ではない事を強調しておく。

3 女性参加者からの提案

女性参加者から女性のための本部組織の発足の要望を受け、以下の提案がなされた。

提案1 セクハラワーキンググループの発足

提案2 女性総会の開催

提案1は、過去のセクハラワーキンググループが十分に活動していない事や、準備校に女性がおらず、男性と女性とで問題の捉え方に差がある等の理由から、セクハラに限らず、女性に対する問題を解決、会の円滑な運営のために本部と連携とした組織の発足を求めた物であった。

この件に関しては、賛成多数で発足が承認された。

提案2は、女性についての問題を話し合う、全員参加的な公式の場を設けてほしい。また、総会の議題として取り上げられると、議題の中に埋もれてしまい、十分に議論が尽くされないと思われるため、独立した時間を確保してほしいと言う要望であった。

この件に関しては以下のように承認された。

- 総会のはじめに「女性総会」の時間を設ける。(時間の確保)
- 「女性総会」が行われる事をプログラムに明記する。(公式な場である事の象徴)

なお、「女性総会」は仮称であり、正式名称は適宜考える。

4 2006年度三者事務局校（神戸大学）からの提案

4.1 提案

メーリングリスト、ホームページが有効に利用されてなかった事や、ML・HP校が機能していなかった事をふまえ、2つの提案がなされた。

提案1 役職校の引き継ぎの強化。

役職校の遂行が困難な場合は、前年度の役職校が代理校を探す。

提案2 メーリングリスト・ホームページ管理を事務局の仕事に組み入れる。

4.2 採決

提案1に関しては、事務局が代理校を探す、その年の役職校が代理校を探す、という意見が出された。しかし、前年度の役職校が仕事を理解しており、引き継ぎやすいだろと思われる。また、その年の役職校が機能していない場合の話であるので、その年の役職校が代理校を探すのは現実的ではないとされた。結局、提案の通りに賛成多数で可決された。

提案2に関しては、仕事は分ける事ができるなら、分散させた方がよいという意見もあったが、仕事量的に十分兼ねる事のできる仕事なので、提案の通り、賛成多数でML・HP校を事務局校に吸収する事となった。この結果を受けて、来年度のML・HP校であった茨城大学は役職から外された。

4.3 まとめ

役職の引き継ぎを確実にするとともに、夏の学校を盛り上げていくためにも、MLやHPを利用し、うまく連携をとって行く事が望まれる。

5 2006年度高エネルギーパート準備校（東京大学）からの提案

以下の2つの提案がなされた。

提案1 メーリングリストに登録されている大学名、研究室名を明文化する。

提案2 準備校は各パートごとに必要なメールを送る。（参加者数など）

提案1 に関しては、賛成多数により、公式文書として、明文化する事が可決された。

提案2 に関しては、MLを積極的に利用して連絡を密にする事。参加者数は登録自動返信メールをパート毎の準備校にも転送する、参加申し込みがあった場合の処理として、参加登録があった事をパート毎の準備校に知らせるプログラムを組むという意見がでた。参加者の情報に関しては、リアルタイムに情報をパート準備校に送ることが可決された。

高エネルギーパートの参加者が減少している。高エネルギーパートを盛り上げていきたいので、周囲への声をよろしくお願いします。

6 2006年度三者事務局校（神戸大学）からの報告

この一年の活動が報告された。

事務局の行った役職校の選定に対しての承認を受けた。今回の総会で承認を得た役職校は以下の通りである。

2009年度三者センター校	金沢大学
2009年度三者準備校	筑波大学・東京工業大学
2008年度三者事務局	総研大学
2008年度三者名簿校	千葉大学

2008年度ML・HP管理校は茨城大学であったが、先述の通りの議論で削除された。

また、今年度より、総会で決定した事項の要約を作る事となった。

7 秋の学会について

学会がハワイで行われる事を受け、以下の提案がなされた。

提案 三者総会をML上でやってはどうか？

原子核分野が奈良女子大学で行われるため、そこで三者総会を行うという意見も出たが、議決の必要条件が満たされない場合もあり、ML上が確実ということで、ML上で行う事が賛成多数で可決された。